



**KEYWORD**

【教員採用試験】

教員採用試験は、公立学校の教員を採用する際の採用候補者名簿を作成するために行う試験。採用候補者の選考を目的とした試験であり、最終合格者について、得点の上位者から採用候補者名簿に登録される。採用後は、正規の教員である教諭となる。



就職活動対策は実践重視のロールプレイング形式。誰もが真剣に取り組めます。



毎週火曜日の早朝に行う清掃活動を通じて地域に貢献し、自主性を育みます。

自ら考える。自ら動く。  
真の教育者であるために。

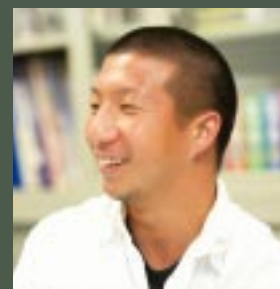
【就職自主サークル】



世話人  
松本有花  
まつもと ゆか(教育学部4年)



世話人  
栢橋 亮  
かやはし とおる(教育学部4年)



世話人  
東 剛  
ひがし つよし(教育学部4年)

あ

あなたが教師として取り組みたいことは何ですか？端的に述べてください。月

曜日午後6時、教育学部の一室から聞こえてくる面接官らしき人の声。凛とした真剣な表情で、それに応える学生。何かの面接？ではありません。数十名の学生が面接官役と学生役に分かれ、ロールプレイを繰り返す、「就職自主サークル」の活動風景です。

このサークルが発足したのは、今から4年前。教員を目指す学生が「教員採用試験の面接対策のゼミを開いて欲しい」と教育学部准教授である阪根先生の下へ。教員になりたいけれど、どう対策を立てればいいのか不安という学生に徐々に広まり、学生自身が運営する教員採用試験に向けての自主サークルとなったそう。そのうちに教員以外の実社会でも役に立つ、と教員以外を志望する学生も参加するようになり、現在では80名を超える登録があるサークルとなりました。

ほとんどの学生がそうであるように、世話人の3人が参加し始めたのは3年次。卒業後の進路を考え始める、教育実習後に参加し始める学生が多いとか。「もともと教員になりたいと思っていました。教育実習に行つてさらにその気持ちが強くなりました。本当に教員になりたいなら、思うだけじゃなく今できることをやっておきたい、と思つて」とは世話人の1人である松本さん。このサークルでは、代表やキャプテンの代わりに「世話人」が会を取りまとめます。「上に立つのではなく、みんなの活動を支えるに

は、世話人という名称がピッタリ」と発足以来、受け継がれてきた役割です。その選考方法も独特。4年次に世話人を引き受けた人が、この人なら次の年に受け継いでみんなの世話をしてくれるだろう、という人を指名するという形で、しかも顔見知り程度にしかお互いに知らない3人が選ばれます。選ぶ基準はリーダーシップよりも「この人ならきつといい教員になる」という確信だとか。

活動は、面接対策だけにとどまりません。「こんなことが起こったらどうする？」と教育現場で起こりうるあらゆる問題を想定し、ロールプレイで体験。その後、互いにアドバイスをしあいます。毎週火曜日の早朝には地域の方といっしょに大学周辺を清掃し、時には中央公園のトイレをボランティア清掃します。なかなか簡単にはできないものではありません。が、彼らを動かしているのは、いい教員になりたいという熱い思い。「サッカー部の先輩にアドバイスされて参加を始めた」という東さんのように、学生が学生の意識を高め、自主的に参加する意欲ある学生を生み出します。「周りがすご過ぎて自信がなくなつたこともありましたが、でも、子どもたちのためなら何でもやれます！」と栢橋さんが言うように、参加する学生に共通するのは、人の嫌がるような仕事も率先して引き受けるまっすぐな姿勢。「次の世代を育てる真の教育者となるつもりならば、まず真の大人であるべき」と心得る学生たちが、今日も自主的に活動を始めます。



「願えば叶う！」医学と陸上。  
二足のわらじでゴールを目指す。



# 伊勢 奈津美

**PROFILE**  
いせ なつみ  
医学部4年生

**女** 子マラソンの富士加代子選手が大好きです。」実際に彼女の練習風景を見たことがあります

が、トレーニング時の集中力の凄さと、陸上を離れたときの底抜けの明るさに気持ちのよさを感じました。彼女の100%なオン&オフの切り替えに憧れます」。

インタビュー中に一段と熱のこもったエピソードを話してくれたのは、自身も中・長距離の陸上選手として活躍する伊勢奈津美さん(医学部4年生)。平成18年度の西日本医科学生総合体育大会では、女子陸上8000・15000・30000メートルの3つの種目で優勝。そのうち2つで大会新記録を樹立するなど、大学陸上界で注目を集めています。小学3年生から本格的に陸上を始め、現在は陸上部と地元の市民ランナーズクラブに所属。毎日、授業が終わるとすぐに走りに出掛けるそうです。

「練習は1日2時間ほど。富士さんじゃないですが、短時間にできるだけ集中する密度の濃い練習を心掛けています。坂路を使った練習方法もその一つです」。それでも多いときは1日に20キロ走ることもあるそう。日々のハードな練習が窺えます。そんな伊勢さんに勉強との両立の難しさを訊ねると、「困難や苦しさといったマイナス的な要素は、全くありません。

せん。陸上は大好きで、私のライフワークですから。勉強で疲れたときに走るとストレス解消になります。勉強と陸上、いい意味でお互いが刺激し合い、相乗効果を生んでいますね」。実は、お医者さんになろうと思ったのも陸上がかきつかけだとか。練習などで痛めた足を病院で診てもらっているうちに、医学の世界に興味を抱いたそうです。「授業や実習で、心拍数や心電図などスポーツと結びつく素材が出てくると、特に面白いですね。もちろん、スポーツ医学にはとても興味があります。ただ、まだ自分がどの専門分野に進むかは決めていませんが…。残り2年半の大学生活でもっと色々なものを吸収して、方向性や目標を見定めたいです」。

**KEYWORD**

**[西日本医科学生総合体育大会]**  
西日本医科学生総合体育大会は、西日本のすべての医学部が参加する医学生スポーツの祭典。毎年行われ、2007年で第59回を迎える。日本国内では国体に次ぐ参加者数を誇り、医学部の運動部にとってもっとも重要、かつ由緒ある大会。



緑に囲まれた医学部グラウンドは、鳥のさえずりも聴こえ、絶好の環境にあります。



KEYWORD

[香川大学工学部]

香川大学の工学部は、安全システム建設工学科・信頼性情報システム工学科・知能機械システム工学科・材料創造工学科の4学科からなる。人間とその生活を取り巻く自然に焦点を当て、人間と自然とが調和的に共生できる科学技術の創造により、人間-社会-人工物-自然との調和と協調を目指す教育研究を行う。



自分の経験を下級生に伝えることも重要です。



積み重ねでプレゼンテーションテクニックが磨かれます。



様々な想いと願いのこもった大切な作品です。

# 渡邊 幸

PROFILE

わたなべ さち  
工学部4年

ひとつつを極めることから、視野が広がる。



**3** 年前、「視野を広げたい」と工学部に入  
学した渡邊さんが出会ったのが、現在  
代表を務める「建築同好会」でした。工学その  
ものが未知であったように、土木専攻の渡邊さ  
んにとって建築もまた、未知なるもの。開発工  
事等において基礎を造る土木を学ぶにあたって、  
建築のことも知っておくことがきっとプラスに  
なるはず、と考え、サークルへ。

『建築同好会』の活動は、自分たちの手で設計  
コンセプトおよびプランを作成し、それを生か  
したエスキスを描き、エスキスに沿って建築模  
型を造り上げていく、というもの。毎週水曜日  
の夜、専門学校の講師を招いて細かな指導を仰  
ぎながら、前期・後期に1課題ずつ仕上げてい  
きます。この同好会、費用等もすべて自己負担。  
大学のカリキュラムにはないけれど、知識とし  
て身に付けておくことで将来きっと役に立つ、  
それを見据えて自主的に学ぼうという意欲のあ  
る学生によって受け継がれてきたとか。自分た  
ちの学びたいことを自身で学びとる、という自  
発的な思いがサークルを支えます。

入会して最初に造るのは、いつかは建てたい  
憧れの「自邸」。どこに何があればうれしいか、  
どんな風に配置すれば生活しやすいか、どんな  
家であれば住み心地がいいか。さまざまな思い  
を一つひとつ、具体的に形にしていって作業は、  
楽しさもあるものの苦勞の連続。「最初は、廊下  
の広さやキッチンの大きさ、家事動線などの必  
要な知識を先生に教えてもらいながら、つくっ  
ていきます。そうやってつくっているうちに、

例えば「窓の大きさや位置ひとつで、イメージが  
大きく変わる」など発見することも多くて」。造  
り終えたあと、それをいかにわかりやすくプレ  
ゼンテーションで伝えるか、ということに悩む  
のも、大きな学びとなります。公共建築や集合  
住宅を手がけるときには共同作業になるため、  
ディスカッションの実践やコミュニケーション  
能力も学ぶこととなります。

とはいえ、授業での課題に加えてアルバイト  
をこなしながら、自主的にサークルの課題を仕  
上げるというのは、思いのほかハード。「途中で  
やめようかとも何度も思いましたよ(笑)。で  
も、やり続けることで見えるものがあると思っ  
たんです。例えば、私は土木が第1希望ではな  
かったけれど、4年間学んだことで土木の面白  
さがわかった。一生懸命ひとつの分野を極めるこ  
とを続けられ、それが結果として視野を広げて  
いくことになるんじゃないかと思うんです」。自  
主的な活動は、言い換えればいつでも自分でや  
められる自由さを持っているということ。だか  
らこそ、やり続けるには、意思の強さが必要と  
なります。渡邊さんにとって、その強さを学ん  
だ時間は何物にも変えがたい充実した時間だっ  
たに違いありません。「これから活動が続ける後  
輩たちにも、自主的に何かを成し遂げることで  
見えるものをつかんで欲しい」と語る渡邊さん  
の横顔は、きりりとした強さを秘めていました。



KEYWORD

【新司法試験】

平成14年の改正により平成18年度から開始された司法試験法に基づく資格試験を指す。受験には、法科大学院課程修了が必須条件であり、法科大学院を修了した者は、その後5年度以内に3回の範囲内で新司法試験を受験することが可能。新司法試験に合格した者は、司法修習を行い、司法修習の最後にある司法修習生考査を通過することで法曹になることができる。

# 井後雅仁

PROFILE

いご まさひと  
香川大学ロースクール3年



授業はいつでも真剣勝負。疑問はどんどん講師に投げかけていきます。

## ”法“の視点から”現実“にアクセスしたい。

香

川大学法学部卒業後、同大学院を経て現在ロースクールで学ぶ井後雅仁さんが、法律の世界に興味を持ち始めたのは高校生の頃。「小さい頃はどちらかといえば自然科学のほうに興味がありましたから、高校入学時は理系だったんです。が、社会学や倫理に関して興味を持ち、法学部を選びました。とはいえ、具体的に法律がなんなのかというのは、よく分からなかったですし、法律とはと問われると、その答えは学べば学ぶほど難しくなる気もしますね」。井後さんが目指すのは、弁護士。そのために、現在の24時間ほとんどがロースクール卒業後の来年5月に行われる司法試験に向けての勉強に費やされているといいます。「ひたすら勉強の毎日ですね。授業のないときにも質問をしに教授のところに伺ったりしています。今日も、今からちょっと質問に行こうと思っ

て、当事者同士では解決できなくなってきたような”他人の揉め事“に首を突っ込んでいくわけです。法に則って判

断するので依頼されたからといって依頼人の利益だけを優先できるわけではない。そう考えると、どちらかという

